



静脩

2006年3月

The Kyoto University Library Network Bulletin

Vol. 42. No. 2

電子ジャーナルの現状と安定利用のために

京都大学図書館機構長・京都大学附属図書館長 大西 有三

京都大学において電子ジャーナルの利用が年々増加しています。2005年度には全学で利用できる電子ジャーナルは9,560タイトルに及び、更に増加傾向にあります。これら全学提供のタイトルの一覧は、

<http://ddb.libnet.kulib.kyoto-u.ac.jp/gakunaiej.html> で検索することができます。

京都大学では長い間、多数の冊子体の雑誌が購読されてきました。しかし、インターネットの普及と雑誌の電子化に伴い、冊子体に加えて電子ジャーナルの導入が進みました。その検討は1999年度附属図書館商議会において始まり、2002～2003年度の(同)外国雑誌等に関する専門委員会において、電子ジャーナルの選定と、それらの全学的提供の決定がなされ、現図書館協議会に受け継がれ現在に至っています。

電子ジャーナルの利用が増加する中で図1に見られるように、冊子体の購読が減少する中で、大学全体の雑誌負担額はほぼ横ばいを続け、差額を埋める電子ジャーナルの経費負担が年々増加しており、その対応に苦慮する事態になっております。これは、一大学の問題ではなくわが国の大学全体の問題であるとして、国立大学図書館協会でコンソーシアムを形成して館長を交

えたメンバーが出版社と交渉を重ねています。

図2は電子ジャーナル Science Direct の年間利用実績を示したもので、毎年増加していることは一目瞭然です。他の出版社の電子ジャーナルについても同様の状況です。こうした利用増加により1件あたりのコストは大幅に低下し、投資効果は上がっております。また、冊子を購読していない電子ジャーナルの利用度も高いことがわかっております。



このように、電子ジャーナルが有効に使われている反面、不正利用の増加という危険な状況があります。図2のグラフの中での利用数突出は、不正ダウンロードが頻繁に行われた状況を示しておりますし、たびたび不正利用が見られ、出版社からアクセス拒否の処置を通告されることから、多くの利用者に不便をお掛けしております。学内的に不正利用の防止アナウンスを行っておりますが、根本的な解決策になっており

ません。こうした事態に対処するため、図書館協議会の承認を得て、電子ジャーナル利用のための認証システムの構築を進めております。本格稼働までに多少の不便をおかけ致しますが、安全な利用のための方策としてご協力のほどよろしくお願いいたします。

最後に、電子ジャーナルを安定的に利用していくためには、恒常的な予算措置と安心できるセキュリティシステムが不可欠です。利用者の皆様方のご支援とご理解をよろしくお願いいたします。

(おおにし ゆうぞう)

図1 冊子体・電子ジャーナル購読経過 (1999 ~ 2006)

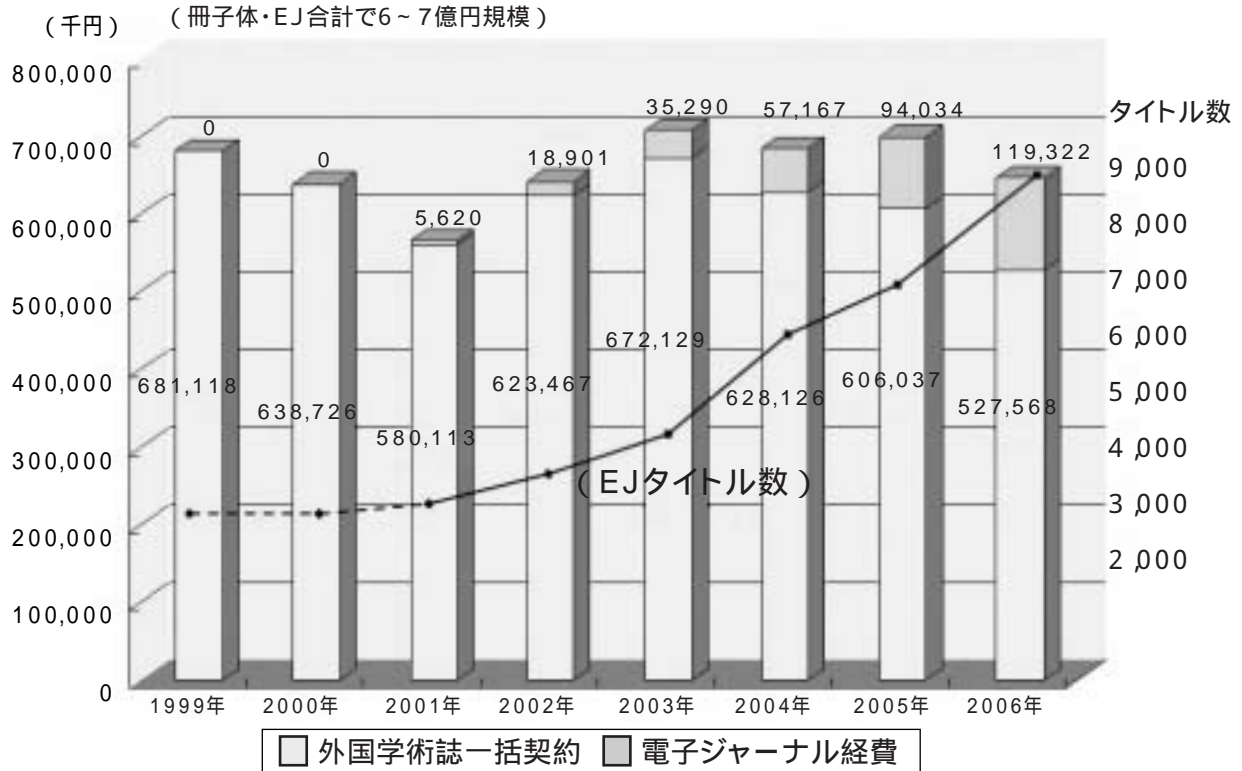


図2 Elsevier サイエンスダイレクト全文利用

